

公民館歴史講座受講報告

2026年1月23日(金)に生浜公民館で開催された歴史講座について報告します。

テーマ: 浜野の江戸時代 (第1部 講義/第2部 歴史散歩)

【第1部: 講義】

第1部は、本会理事で郷土史家の今井公子先生を講師に迎え、2時間の講義が行われました。本講座は毎回人気が高く、今回も定員の2倍にのぼる応募があったとのこと。その内容の一部を以下に紹介します。

浜野地域は古代から湊(みなと)が開かれ、房総内湾の宿場として発展した場所と推定されます。寛永4年(1627年)、森川重俊(生実藩初代藩主)が1万石の大名に取り立てられて以降、藩領のうち7千石が生実陣屋の「地廻り19村」(浜野村は19村のうちの1村)となりました。この村割は明治4年に生実県になった際も維持されました。(※陣屋とは城郭を持たない小規模な大名の政治拠点であり、役所兼邸宅を指します。)

生実藩領の村々の位置を確認すると、生実周辺だけでなく、「東領(約1100石)」と呼ばれる県東部や、「相模領(約1900石)」と呼ばれる神奈川県にも領地が点在していました。

生実藩領であった浜野村は、房総往還の宿場町であるとともに、地廻りの村々が利用する湊や藩の「御蔵(おくら)」を有する要所でした。寛永期の村高は728石余りで、これは生実藩領内では北生実、南生実に次ぐ第3位の規模を誇っていました。

講義では、村高の推移、浜野仮番所や河岸の変遷、古文書に記された宿場での出来事など、多岐にわたる解説がありました。2時間では時間が足りなく感じられるほど、江戸時代の浜野村への理解が深まる充実した内容でした。

生浜地域誌

第77号

2026.3.31

発行

NPO法人

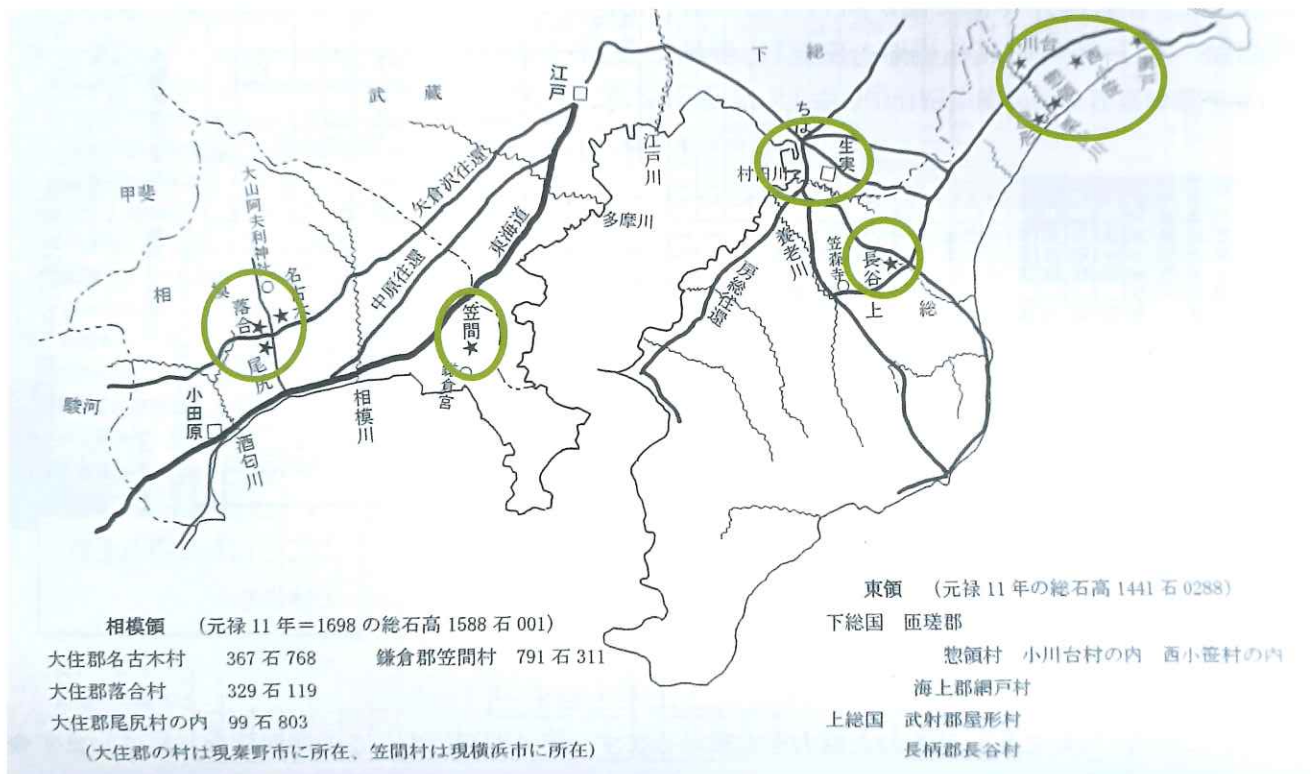
ちば・生浜

歴史調査会

電話

080-5387-

2592



生実藩領村々の位置図 (筆者が○印表示追記・○のサイズは石高を示さない)

【第2部：歴史散歩】

午後は、旧生浜町役場庁舎に集合し、今井先生の解説のもと(一部は報告者が担当)、以下の順路で浜野の町を見学。

1. 旧生浜町役場庁舎:昭和7年築。千葉市有形文化財に指定されている庁舎内を見学。展示されている農具・漁具・民具のほか、建築物としての庁舎を目当てに遠方からの来館者も増えているそうです。(火・木・土曜日開館)
2. 諏訪神社:奉賛会会長・副会長のご配慮を賜り、普段は公開されていない社殿内を拝見することができました。境内では、かつて力比べに使われた「力石」も確認しました。



宝暦5年(1755年)入会浦濤絵図の浜野部分に筆者が追記

3. 本行寺:今井先生の解説に加えて、朝倉住職より、境内の由来や墓地についてのご説明をいただきました。また午前中の講義でも触れられた「本行寺領10石」という歴史的背景を現地で再確認できました。
4. 浜御蔵跡:現在は住宅地となっていますが、絵図に示された浜野河岸へと続く門の跡地周辺で解説がありました。古文書に基づき、蔵の建屋数や、村々が分担して修繕にあたった「竹矢来(たけやらい)」の規模などについて学びました。
5. 浜野河岸(現・浜野公園周辺):かつて活気をみせた河岸も、現在はその面影がほとんど残っていません。しかし、船の航路を確保する「濤(みおさらい)」が戦後の埋め立てまで続いていたことや、江戸時代の古文書の記録によれば、村から藩に願い出て実施許可を受け、毎年旧暦3月24日、25日の春の大潮で海岸が干上がったときに実施されていたこと、その作業に携わった推定人数の説明などがありました。(濤:河川や海で船が航行する水路(航路)です。)
6. 高札場跡 :江戸時代の高札場跡を確認し、現地解散となりました。

参考資料:生実藩領椎名上郷の御用留(NPO法人ちば・生浜歴史調査会)

(文責:うちかわ)



民具展示部屋で日常の食器を前にして

千葉県立生浜小学校、 旧生浜役場見学会 報告

日時 令和8年3月3日 火曜日

9:00~11:45

目的 小学3年生の授業の一環として昔の農具・漁具・生活民具の見学と生活ぶりを知る。

対象児童 3年生2クラス 70名

引率職員 2名



海苔やお米の道具を肌で感じて...

本会では賛助会員を募集中

◆本会の趣旨に賛同していただける方のご協力をお願いします。年4回発行の、この機関誌をお届けします◆

●お問い合わせは旧生浜町役場庁舎まで ● ◆年会費3000円◆

☎043-265-8816 火・木・土 9時30分~16時00 又は☎080-5387-2592(伝言可)